



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 51

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 51. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1956, 51: 43-48

ISSUE DATE:

1956-12-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186819>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No.51

1956.11月(12月5日)

録 事

11月も、先月に次ぐ多数の参観者で賑わい、4万人を越す盛況であつた。

3日は文化の日であるので、毎年の恒例により、当日の売上金を文化事業に寄与する目的を以て寄贈することになっているので、今年は実験所や水族館の協力を得て10年を要して、このほど保育社より発行の運びにいたつた内海委員の原色日本海岸動物図鑑を和歌山県教育委員会の推薦により県下の高等学校26校に寄贈することにした。県下における高校生徒の生物研究を促進する一助ともなれば幸いである。

2日から15日間にかけて、京大関係のUNESCO委託の本格的調査研究が開始された。調査は京大地球物理学教室の福尾助手と依田大学院学生による田辺湾の海水交流と潮汐振動の調査、実験所の山路布地委員及び原田大学院学生による潮流に伴うプランクトンの移動観察、大阪学芸大学中村秋甫助教授及び男女学生5名を加えての放流瓶によつて行われた田辺湾の潮流調査、京大動物学教室奥野良之助大学院学生の湾内15地点における磯魚の潜水観察が悪天候をおかして、終日実施され、多大の成果を収めた。又一次の調査を終つた11日の夜には、束所中の宮地所長を交えて調査報告会が行われた。

なおこの調査には読売新聞社の水中撮影班や航空撮影班も参加して、海に空にすばらしい活躍をみせ、実験所を中心とする田辺湾の海洋調査に甚大な協力を受けたことを特記しておかなければならない。

22日～24日は同じくUNESCO委託による竹内能恵（気象庁海洋課長）及び岡見登（科学研究所施々木研究室）両氏の水中照度の日変化測定が水族館下の海岸で行われた。

14日より4日間にわたって天理大学において開催されたオ4国博物館大会に内海委員は水族館を代表して参加出席した。

実験所や博物館の雨漏りや、樋の破損が甚しいので、全面的に修理をした。

26日より12月2日にわたる全国防火週間実施に伴ない、30日午後3時より白浜町消防団長上田進氏の指揮の下に、始めて防火訓練を行なった。演習は初めての試みとはいそ、臨海地区居住の各戸も全員よく協力して初期消火の要領を会得したので、永年からは更に防火施設も充実させて、本格的な自衛消防隊としての実をあげたいものである。

業 務 概 況

◎ 11月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大人	8437	64163	15439	116497	23876	180660
小人	262	5539	167	3338	429	8877
団体	17257	100426	—	—	17257	100426
合 計	25956	170128	15606	119835	41562	289963
無料入場者	神戸地方裁判所取員 他				40	673

団体： 一般 168組，学生 27組 計 195組

◎ 11月の事業収入

(今年度累計)

観覧券売上金	756,026	5,245,585
予金・積立金利息	—	49,082
雑 収 入	80	11,070
奥 類 拵 下	100	100
計	756,206	5,305,837

◎ 11月の支出

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	71430	548180	
会 社 費	—	62227	
備 品 費	—	177220	廻転椅子 3万円を実験所費に L 変更
消 耗 費	15783	78596	
事 業 費	62223	341253	
維 持 費	22656	79981	
其 他 諸 経 費	28550	231448	文化の日報上金より「原色日本 海岸動物図鑑」を購入
積 立 金	128203	891852	
合 計	328,845	2410,757	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	15915	76565	山路委員、ユネスコ調 査研究会費
奨 学 金	5000	40000	
備 品 費	—	45140	水族館費より3万円転記
刊 行 費	17725	307375	生理生態学研究業績80号印刷代
役 務 費	62125	62125	実験所屋根、桶修理
合 計	100,765	531,205	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	4500	43560	
備 品 費	—	8500	
消 耗 費	4240	4835	写真用閃光電球
役 務 費	24260	24260	博物館修理
合 計	33000	81155	

臨時費

支出なし

支出合計		(今年度累計)
水族館経費	328,845	241,075
実験所経費	100,765	53,120
博物館経費	33,000	8,155
臨時費	—	367,120
計	462,610	339,027

◎ 11月末現在高

前月からの繰越	1,725,188
今月の収入合計	756,206
今月の支出合計	462,610
現在高	2,018,784

◎ 前年度との比較

	1955	1956	増 減
入場者数	35373	41562	+ 6189
売上金	614,860	756,026	+ 141,166
支出金	321,470	462,610	+ 141,140

水族館記事

- ◎ 魚類購入のよいお得意先である雑賀崎の漁師達はそろそろ風と寒気を避けて南の方へ出掛ける頃となり、水槽も次第にさびしくなったのでエビ類の購入に努める。又月末よりツボ網漁が再開されたので若干の奥が入るようになった。
- ◎ 4日 ツバメウオ 1匹入槽、8日死亡
- ◎ 16日 ツノダシ 3匹入槽、20、22、23日に亘って全部死亡
- ◎ 17日 ノコギリガザミの♀1匹を買入れ、アベックが1組出来た。
- ◎ 30日 ツバメウオが又1匹入槽。
- ◎ 水族館の壁が所々いたんでおり、29日には強風のため標本室東側の壁が1州四方脱落した。

博 物 館 記 事

- ◎ 読売新聞大阪本社写真部より田辺湾及びその附近の航空写真15枚(全紙3枚, 1/6判12枚)及びエネスコ委託海洋調査の写真24枚(1/6判)の寄贈を受けた。そのうち大形の航空写真は額におさめ、とりあえず水族館と研究室の壁に掲示することにした。
- ◎ 屋根の雨漏り個所を応急修理したので、階下展示室も一応見られるようになった。

資 料

- ◎ 11月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(21)	7	6	8
気 温 (°C)	$\frac{15.8 \sim 20.1}{17.4}$	$\frac{12.5 \sim 20.0}{15.2}$	$\frac{11.1 \sim 16.4}{13.7}$
水 温 (°C)	$\frac{20.1 \sim 21.0}{20.7}$	$\frac{17.9 \sim 20.9}{19.4}$	$\frac{17.7 \sim 19.4}{18.1}$
比 重	$\frac{23.2 \sim 24.5}{24.0}$	$\frac{23.0 \sim 24.9}{24.1}$	$\frac{24.6 \sim 25.5}{24.7}$

12.0

但し { 気温 は南水槽室
水温 はNo. 25 水槽
比重 } で9時測定

来 訪 録

- 11月8日 二見浦水族館の森栄二理事が魚類の病気につき問合せのため来館。
- 11月24～25日 京都市立美術大学女子学生3名(京大農学部大槻教授紹介)来館、水族館の魚類を学す。

正 誤 表

- No. 50, p. 41 10月末現在高の前月からの繰越を 1,307,369に
現在高の所を 1,725,188に訂正。

55

昭和31年12月5日		(No. 51)	
編集兼 発行者	内海 富士夫		
発行所	瀬戸 嶋山 海実 駿所 振興会 和歌 瀬戸 白 所 内 瀬 (Tel. 白 所 温 泉 515)		